

# 派遣留学生帰国報告書

\* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015年6月3日		
所属学部	法経学部		
所属学科・専攻	総合政策学科	学年	3年

## 1. 留学先について

留学先大学名	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校		
留学先所属学部等	経営学部(College of Business)		
留学期間	出発日 2014/8/18	入学日 2014/8/25	修了日 2015/5/20 帰国日 2015/5/23
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート等 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ( )		
	通学時間	15分/5分	<input type="checkbox"/> 大学の紹介・あっせん
	通学方法	徒歩/大学内シャトルバス	
	部屋のタイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> ( )人部屋 <input type="checkbox"/> 共同スペース有 ( ) <input type="checkbox"/> 無	
食事	自炊 70 %	学食 20 %	外食 10 % その他 ( ) * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	エアーリンク学生のための総合保険	
	大学指定の保険(名称)	HTH Worldwide Insurance Services	<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入
	その他		
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウイスコンシン(電車)		
	羽田	⇄	JFK(飛行機) ⇄ ストーニーブルック【電車】

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	330万	円	* おおよそでかまいません。			
出処						
自費	<input checked="" type="checkbox"/> 貯金	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円	<input type="checkbox"/> その他	円
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円	<input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/> JASSO	円	<input checked="" type="checkbox"/> その他名称( )			円
その他	<input type="checkbox"/> 千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/> その他( )			円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金	円	<input type="checkbox"/> クレジットカード	円	<input type="checkbox"/> その他 ( )
留学中	<input checked="" type="checkbox"/> 海外送金		<input type="checkbox"/> キャッシング		<input type="checkbox"/> その他 ( )

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	銀行小切手(Bank of America)
住居にかかった費用	銀行小切手(Bank of America)
その他	

2-3. 内訳 \* 外貨と日本円に換算した金額を両方記入してください2-3. 内訳 \* 外貨と日本円に換算した金額を両方記入してください

費目費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	ドル	1640	20万	円
海外旅行保険		250	3万	円
OSSMA		165	2万	円
査証・在留許可証		0	0	円
住居		1,000	130万	円
食費		1700	30万	円
通学に要する交通費			0	円
教科書、教材費		850	10万	円
その他大学に支払った経費		8200	100万	円
光熱費			0	円
その他 ( アメリカスマートフォン )		300	4万	円
その他 ( 週末・休暇中の娯楽・旅行費用 )		4000	50万	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

3. 学業面 \*必ず留学先の成績証明書と単位の互換認定が反映された千葉大学成績証明書を提出すること。

履修科目名 * 全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 ex. 正規、聴講	単位数	単位認定の有無
1 POL102 Introduction to American Government	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
2 IAP390 American History and Society	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
3 BUS111 Introduction to Business	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
4 BUS348 Principle of Marketing	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
5 AMS102 Elements of Statistics	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6 POL101 World Politics	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
7 BUS330 Principle of Finance	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
8 BUS363 Brand Management	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
9 SOC248 Social Problems in Global Perspective	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
10 BUS351 Human Resource Management	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
11			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法 \*登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合などに具体的に説明してください。

SOLARというオンラインサイトからログインし、取りたい科目を履修登録した。SOLARは千葉大とは異なり、自分のパソコンからでもアクセスして履修登録ができる。しかし、上級科目を選択する場合は履修要件が課され、それを満たさないと履修登録できないため、ほとんどの科目は留学生専用の履修登録フォーム(ストーニーブルック大学の留学生課からフォームのURLが送られてくる)を通して申し込んだ。それでも申請が許可されない科目については、実際に留学生課のオフィスを訪問してアドバイザーの人に頼んだ。

3-2. 授業内容、方法に関して

大人数・講義型のクラスは教授によるレクチャーが中心で、定期的な課題を課さないクラスがほとんどで、テストは選択式が多かった。対して、少人数のクラス(自分の専攻)は、ディスカッションやスライドを通じた教授とのやり取りが中心で、グループワークやチームプロジェクトが多くあり、課題も多かった。日本の大学では講義や理論の解説が中心で、実践的なことはあまりしなかったが、こちらの大学では理論をさらりと勉強した後、具体的な問題や実践例を用いて問題を解いたりグループワークをすることが多かった。

3-3. 語学力について

留学前、TOEFL ibt 82を取得しており、語学力には自信があったが、初めての授業は教授が何を言っているかなんとなくしか分からなかった。留学して3か月後、教授の解説は理解できるようになったがクラスメートのくだけた英語のディスカッションにはほとんどついていけず苦労した。8か月後の3月頃になって、ようやくアメリカ人学生と大きな障害なくコミュニケーションできるようになったが、それでも話題の種類や相手のアクセントなどによって理解できないときは度々あった。それでもなんとか彼らとプロジェクトワークなど一緒にできたのは、その分自分が先回りしてリサーチをしたり、話題についていけるようにアメリカの映画やドラマなどを毎日見ていたことが大きいと思う。

### 3-4. 図書館など学内施設について

ストーニーブルック大学の図書館は簡素な施設で、所蔵数はそこまで多くなく、テスト前になると自習スペースが混み合い席をとるのでひと苦労だった。パソコンの設置数は多く、wifi環境も快適だった。REC centerという学生用のジムがとても充実しており、週に一回は通っていた。

### 3-5. その他

4. 生活面 \*気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。書ききれない場合には別紙等にご記入ください。

#### 4-1. 住居について

West Apartment という留学生が主に住む大学寮に10か月間滞在した。部屋は、アメリカで一般的なスイートルーム(6人でキッチン、バスルーム付きの部屋を共有し、その中にそれぞれの部屋がある)だった。値段は一月水道・光熱費込みで約12万円と、かなり高かった。

#### 4-2. 食生活について

食事ははじめ、キャンパス内のフードコートで済ませていたが、値段がやや高いうえ(一食8ドルほど)、栄養が偏りがちで、味もそこまで良くなかったため、そのあとは主に自炊をしていた。私の大学やその周りにはアジア系の学生、市民が多くいたため、スーパーやアジアンマーケットなどで日本のものを手に入れやすかった。キャンパスの周りには店がぼつぼつとある程度で、車なしでは行くのが大変だった。週末にショッピングバスという大学から出発する無料シャトルバスを使って、よく買い物に行った。

#### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

キャンパス内のネット環境はおおむね良く、その中では大学のwifiを使って日本の携帯も使用することができた。(LINE,FACE BOOKなど)キャンパス外に出ると大学内のwifiは使えないため、アメリカのスマートフォンを買った。アメリカでは月ごとの契約プランがあり、日本のように二年契約を結んだがために解約料を支払うということもなかった。

#### 4-4. 服装について

アメリカの学生らしく、Tシャツにジーパンのようなカジュアルな服装の学生が多かったため、私も日本ほどおしゃれには力を入れず比較的ラフな格好で投稿していた。真冬のNYはとても寒く、私は現地で丈の長いダウンコートを買った。

#### 4-5. 健康管理について

健康管理は、留学中自分の中で最も気をつけていたことのひとつだった。学校で感染症が広がったことなどはなかったが、学校から帰った後のうがい手洗いは欠かさず行っていた。風邪薬などは両親に日本から送ってもらった。また、滞在の後半から体重が少し増加したので、大学内のジムに頻繁に通って適度なトレーニングをしていた。

#### 4-6. 保険、OSSMAの利用 \* 利用実績等をご記入ください

ストーニーブルック大学の保険(WTH Worldwide Insurance)は一回、日本から持ってきた常備薬が切れてしまったときに利用した。大学内の保健センターに行って同じ成分の物質が入った薬を頼むと、保険を使って実質無料で出してくれた。(ただし保険が適用されるまで、一度実費で\$900払わなければならなかった) OSSMAはほとんど使わなかった。一度アメリカのスマートフォンをなくした時に、臨時対処としてどうすべきかをOSSMAに電話してアドバイスをもらった。

#### 4-7. 課外活動について

JSO (Japanese Student Organization) と Hula-Hoop Club に参加していた。JSO の毎週のミーティングには授業との重複のためほとんど行けなかったが、代わりに J-Pal という日本語を教えるマンツーマンのプログラムに参加し、週に一度アメリカ人の日本語の学習を助けていた。フラフープクラブは自分の好奇心で始めたクラブ活動だったが、とても楽しく活動できた。フラフープを2-3年続けている上級生のひとにたくさん技を教えてもらい(どれも難しくマスターする前に帰国してしまったが…), 音楽に乗りながら各人自由に踊るというスタイルが好きで、勉強がづらいなかでも良い気分転換になった。

#### 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

大学外には店も家もまばらで、周辺のコミュニティとの交流の機会はほとんどなかった。たまに、学外に住んでいる友達が家に招待してくれ、そこでその村に住んでいる人と知り合うことができた。

#### 4-9. 日本から持参してよかったもの

常備薬、夏 & 冬服(現地で買うとけっこう高い)、文房具一式(日本製のほうが性能がいい)、カメラなど

#### 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

パーティドレス(ドレスコードがあるパーティはほとんどなく、また安物なら現地で買って十分だと思った。)逆に、スーツは日本から持参しなかったが持ってくればよかったと後悔した。当時2年生だったので就活などしないと思っていかなかったが、コンフェレンスの参加やクラスの最終プレゼンテーション時にスーツの着用が求められた。

#### 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

あくまで一般論であるが、やはり日本に比べてみな時間をあまり守っていない。アメリカのカスタマーサービスについて、レストランなどチップを払う場ではスタッフも気さくだったが、スーパーのレジなどではぶっきらぼうな対応が多かった(途中からは慣れてしまったので気にならなかったが)。バスを降りるときでも、日本では運転手がお礼を言い乗客は無言で降りていくのに対し、こちらでは乗客が礼を言い(Thank You!), 運転手が返答(Have a good day)していた。また、携帯を高速バスの中においてきてしまったとき、すぐさまバス会社に連絡したが全く取り合ってくれなかった。友人には「アメリカでものをなくしたらそれは寄付と同じ」と言われ、まさにその通りの文化だった。このように、日本のような質の良いカスタマーサービスは期待できなかったが、アメリカ人ならではのカジュアルで肩の張らない対応は、慣れてくると居心地よく感じた。

#### 4-12. 余暇の過ごし方

旅行 \* 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

8/31-9/2 ワシントンDC \$250 1/2-1/22 フロリダ ホームステイ \$900 3/19-21 ボストン \$200 5/8-10  
ナイアガラの滝&トロント \$450

#### その他

2/14-2/16 ボストン、ハーバード大学にて専門分野のコンフェレンスに参加 \$300

### 5. 報告

#### 5-2. 留学先大学について

ストーンブルック大学は、NY州のロングアイランドという、海と森に囲まれた自然の中に位置する大学です。都市マンハッタンから電車で2時間で行けるという近さから、日帰りで観光にも行けます。総合大学であり文系から理系まで幅広いですが、特に物理、工学、コンピューターサイエンスが有名です。派遣留学生としては韓国人の比率が最も多く、次いで中国人、ブラジル人と続き、日本人は早稲田大学からの留学生が多いです。大学の人種構成を見てもここはアジア系の学生が多いことが特徴です。大学の設備はとて整っており、特に学生専用のジムが充実しています。週の後半になると、夜にキャンパス内で数々のイベントが開かれ、多くの学生が集まります。

#### 5-3. 留学中の様子

渡米し最初の数日間は、留学生向けのオリエンテーションに参加しました。履修登録の仕方、キャンパスライフの送り方などについて説明を聞き、他の留学生とも出会える貴重な機会です。数日後授業開始となります。私はとりたい専門科目に多くの履修要件があり、またそもそも私の学部では、留学生用に取れる科目が制限されていたので、秋セメスターは基礎的な導入科目を多くとりました。まだ英語での授業やこちらでの授業スタイルに慣れていなかったのも、初めのセメスターから無理なくてよかったです。はじめの2-3か月はアメリカ人学生の話にほとんどついて行けなかったため、自然と自分と同じくらいの英語レベルの留学生仲間とよく遊ぶようになりました。秋セメスターでは週末になるとマンハッタンに、感謝祭や連休には旅行に行くこともできました。NYのまわりにはワシントンDC、ボストン、フィラデルフィアなど有名な観光地があるので、楽しみが多い分、勉強とのバランスを取るのが大変でした。留学生仲間はできましたが、時々寮の部屋にずっといると孤独を感じふさぎ込むことが多かったのも、積極的にキャンパスのほうに出ることにしていました。冬休みは5週間あり、皆故郷に一時帰国する人、アメリカ中を旅する人、大学に残る人など様々でしたが私はフロリダに3週間のホームステイをしました。大学寮で自炊をしていたこともあり、アメリカの食生活をここまでどっぷり体験できたのはやはりアメリカの家庭に滞在したからだと思います。ステイ先の家族の話などを聴いているうちに、英語が少しずつ向上していくのを実感しました。春学期は自分の専門分野に関する科目を多くとり、クラス内のディスカッションやグループプロジェクトがあるクラスにも挑戦しました。実際英語力(コミュニケーション能力)がついてきたな、と感じたのは帰国2か月前の3月頃です。このころから日本食がやけに恋しくなり、両親から送ってもらった日本の調味料やインスタント食品などを重宝して使いました。はじめ活発だった留学生同士の交流は春セメスターになってほとんどなくなってしまい、一定の友人と密につながることのほうが多くなりました。といっても、10か月を通して数えきれない人と出会いました。留学を終えてもまだ残っているのは、英語よりも何よりも、日本では決して出会えなかった彼らとのつながりだと思います。

#### 5-4. 留学希望者へのアドバイス

まず、英語力について。あればあるほどよいですが、留学中に伸ばすこともできるので、とりあえず留学条件の大きな関門であるTOEFLの勉強に集中してください。私は1年生の8月から2-3か月集中して勉強し、その後の面接試験に合格しました。TOEFLを乗り越えたあとは、なるべく日常会話に近い英語をたくさん聞いてください。早いリスニングだとちんぷんかんぷんという人には、何回もスクリプトを繰り返してくれるNHKのラジオ英会話を、リスニングに多少自信のある人は海外ドラマを字幕なしで見ることをおすすめします。自分が留学した時点で一番足りなかったのは、くだけたアメリカ英語の理解力です。これは留学前のほとんどの人が持っていない力だと思うので、ぜひ留学する前から鍛えておくことをおすすめします。次にやっておいたほうがいいことは、自分の専門分野への理解です。留学後、まず言語の問題に直面すると思いますが、それを補う知識があれば、単語単語聞き取れたことをつなぎ合わせるだけで教授の言っていることが理解できるはずです。自分が何を学びたいかを明確にし、その関連分野の本などを日本語でいいので読んで知識を深めておくと、授業での理解に役立つと思います。

#### 5-5. 留学を終えて \* 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

留学を通じて身についたのは、忍耐力・寛容さ・英語によるコミュニケーション能力です。最初のふたつについて、外国に滞在すると、否が応でも日本との違いを意識させられます。対人関係だったり、時間を守るだったり、状況にもよりますが、そのような違いを当たり前と捉えて気にしなくなるような力がつきました。3つ目の英語力ですが、今まで私は英語力＝英語がペラペラに話せることだと思っていました。しかし留学して、英語力とは何かということについて深く考えさせられました。自分が正しいと思っても、伝わらなかった時が多かったからです。10か月留学したからと言って英語がネイティブ並みにうまくなったかという、そんなことは決してありません。けれども、現地の人とコミュニケーションを取る力は格段に伸びました。それはやはり、彼らと同じ地で生活をする中で、人気のテレビドラマやよく買い物に行くスーパーや授業の履修など、共通の話題が増えたからです。この時になって、英語が伝わるというのは、英語を話す彼らの文化を理解していること、またその話題を知っていることが大きく関わっていることに気づきました。この総合的な英語力をつけられたのはやはり長い間滞在したからだし、忍耐力と寛容さは別の文化的背景を持った人と交流するときにとっても必要な資質です。現在、千葉大では留学する人の数は増えましたが、手軽な短期留学に人気が集まっていると聞きます。もちろん短期留学でも良いですが、長期留学には長期いたからしか得られないことがたくさんあります。わたしは派遣留学を経験した身として、これから留学の魅力をたくさんの人に伝えたらなと思います。

お疲れ様でした

国際教育センター海外留学支援室 2015.2作成版